

《各県コーナー》

神奈川県における近年の災害の状況と防災活動

………神奈川県県土整備局河川下水道部河川課防災グループ

1. はじめに

＜神奈川県的位置・地勢・人口・気象＞

神奈川県は関東平野の南西部に位置し、北は首都東京に接し、東は東京湾に、南は相模湾にそれぞれ面し、西は山梨、静岡の両県に隣接しています。

本県の面積は、平成25年10月現在で2,416.05平方キロメートル（国土地理院データ）であり、その地形は大きく分けて、西部は山地、中央は平野と台地、東部は丘陵と沿岸部の三つに分けられます。

山岳は箱根と丹沢山塊で1,500m級の山々は「神奈川の屋根」といわれています。県の中央部を貫流する相模川や西部を流れる酒匂川は、県の重要な水資源として、高度利用されています。426kmの海岸線は変化に富み、東京湾側京浜地帯は高度に発達した港湾となっています。

また、富士箱根伊豆国立公園の一角をなしている箱根や湯河原の温泉地帯、丹沢の山岳地帯や、史跡名勝を有する「歴史の都」鎌倉など、本県は産業、文化とともに豊かな自然環境と観光資源に恵まれた郷土となっています。

本県の気候は、北西部に丹沢や箱根の山地をひ

かえ、東と南が平野と海に面し、また、太平洋の黒潮の影響を受けているため、温暖で雨量の多い太平洋側気候となっています。



図-1 神奈川県の概要

＜神奈川県の名由来＞

「かながわ」の名は、昔、神奈河、神名川、上無川などとも書かれ、武蔵国久良岐郡（現在の横浜市神奈川区）の地域をいい、古くから陸上・海上交通の重要なところでした。これが県名になったのは、横浜開港に伴い、安政6年（1859）に「神奈川奉行所」を置いたことによります。そして、明治元年（1868）9月に神奈川県となりました。

＜神奈川県の水資源＞

本県が管理する河川は、一級河川が34河川、二級河川が79河川であり、その延長の合計は約755kmとなっております。

県の東側では、都市化の進展が著しい地域を流れる河川が多く、西側では、箱根、丹沢などの山岳地帯を水源とした自然豊かな河川が多くなっています。

表-1 横浜の平成25年データ（横浜地方気象台）

年平均気温	摂氏 16.6度
最高気温	摂氏 37.4度
最低気温	摂氏 -0.5度
年間降水量	1,516.5ミリメートル

表-2 平成26年4月1日現在の人口

総人口	9,079,236人
世帯数	3,949,795世帯
人口密度	3,758人/km ²

《各県コーナー》

2. 神奈川県近年の災害

神奈川県は、他県に比べ災害が少ないと思われ
ます。図-2にH19～H25の災害査定の結果を示
しましたが、H19年には26件、H20年には15件だ
ったものの、その他の年は10件以下となってい
ます。

災害が少ないのは非常に良いことですが、いつ
何時災害が起こるとも限らないので、常にその準
備は重要であると考えています。

<H24年災>

○6月 台風4号

6月12日15時にカロリン諸島の海上で発生した
台風4号は、関東甲信地方を縦断して20日の明け
方に福島県沖に抜けました。このため、神奈川県
内では6月19日の夜に大雨となりました。なお、
台風が6月に本土に上陸したのは8年ぶりのこと
でした。

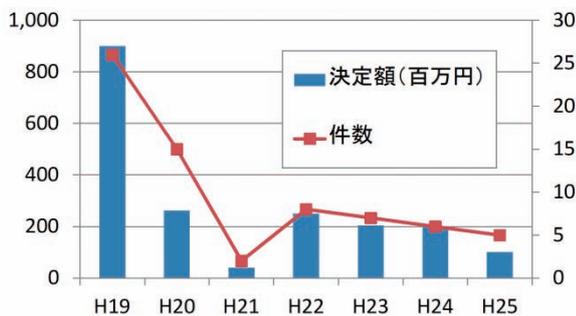


図-2 神奈川県の近年の災害状況(市町村含む)

6月19日の昼前11時過ぎに県内全域に大雨注意
報が発表され、台風が接近した16時過ぎには、県
西部を中心に大雨洪水警報が発表されました。日
付が20日に変わり、警報は解除され、20日6時過
ぎには県内の大雨洪水注意報はすべて解除されま
した。

この台風の降雨により、二級河川の酒匂川及び、
山王川で2箇所の河川施設が被災しました。

第1号は山北町内における酒匂川において護岸
工が被災したもので、復旧延長は72.8m、復旧工
法は、護岸工としてブロック張工を394㎡、ブロ
ック積み工を399㎡、根固めブロック(10t)50
個を申請しました。この被災箇所には、昨年(9

月)に台風15号により被災し、平成23年災として災
害復旧事業の施工中に被災を受けたもので、増破
として申請をしました。

第2号は、小田原市内における山王川において、
護岸工が被災したもので、復旧延長は42.0m、復旧
工法は、護岸工として、コンクリートブロック積
みを215㎡、根固め工として、ふとんかごを84m
申請しました。



図-3 H24年災 第1号酒匂川被災箇所

○7月 梅雨前線

梅雨前線が本州付近に停滞し、前線に向かって
暖かく湿った空気が流れ込んだため、県内では13
日夜遅くから14日明け方にかけて県西部を中心
に大雨となりました。全国的には、この時期、同じ
く梅雨前線の大雨があり、河川の氾濫などの被害、
いわゆる平成24年九州北部豪雨が発生しておりま
す。

7月13日の17時過ぎに県内ほぼ全域に大雨注意
報が発表され、日付が変わり14日の3時前には、
県西部を中心に大雨洪水警報が発表され、その後
7時には県内の大雨洪水注意報に切り替えがなさ
れ、11時には県内の大雨注意報は解除されました。

この梅雨前線の降雨により、二級河川の金目川
で2箇所(第3号、第4号)の災害が発生しました。

第3号は平塚市南金目の護岸工が被災したも
の、復旧延長は35.8m、復旧工法は、護岸工とし
て法覆護岸工として、延長28.8m、面積としては、
ポーラスブロック張り工を120㎡、滑面ブロック
を85㎡申請しました。残りの延長7.0mについて

《各県コーナー》

は、じゃ籠護岸を申請させていただきました。

第4号も同じく金目川であり、第3号から1.5kmほど下流に位置する、平塚市内における護岸工が被災したものであり、復旧延長は83m、復旧工法は、法覆護岸工として、コンクリートブロック張り工を757㎡、根固め工として根固めブロック103個を申請しました。



図－4 H24年災 第4号金目川被災箇所

<H25年災>

○4月 急激に発達した低気圧

前線を伴った低気圧が急速に発達しながら本州の沿岸を東北東に進み、7日には更に発達しながら三陸沖を北上しました。また、別の低気圧が日本海を発達しながら進み、これらの低気圧の影響で、県内では6日の夜に雨が強まり、海老名観測所では観測史上第1位にあたる102ミリの1時間降水量を観測しました。

6日14時51分に県内全域に大雨注意報が発表され、16時57分には、県央部を中心に大雨洪水警報が発表されました。その後、警報の地域は23時過ぎまで全县に拡大していきました。15時41分に県内すべての大雨注意報が解除されました。

この低気圧の降雨により、二級河川金目川において、災害が発生したもので、復旧延長42m、コンクリートブロック張り工381㎡を申請しました。この被災箇所は、平成24年災として災害復旧事業の施工箇所から約40m上流に位置しており、この40m区間も合わせて復旧工事を行いました。



図－5 H25年災 第1号金目川被災箇所

○10月 台風26号

台風26号は、10月11日3時にマリアナ諸島の近海で発生した台風26号は、関東の東海上を北東に進み、16日15時には三陸沖で温帯低気圧に変わりました。

10月15日11時40分に県内全域に大雨注意報が発表され、19時36分には、県内全域に大雨洪水警報が発表されました。その後、16時44分に県内すべての大雨注意報が解除されました。

この台風の降雨により砂防施設に災害が発生し、復旧延長33.6m、コンクリートブロック積工163㎡、根固め工34.0mを申請しました。

3. 神奈川県防災への取り組み

<神奈川県雨量水位情報>

水防管理団体の水防活動や、住民の警戒避難等に資するために、神奈川県では雨量データを平成15年10月から、水位データを平成16年10月からインターネットで情報提供を行っております。さらに、住民にわかりやすい情報を提供することを目的に、河川監視カメラによるリアルタイムの映像を平成20年9月からインターネットで公開しております。この、「神奈川県雨量水位情報」は、降雨の多い夏場の時期には、県ホームページの中でも利用の多いページとなっています。

《各県コーナー》

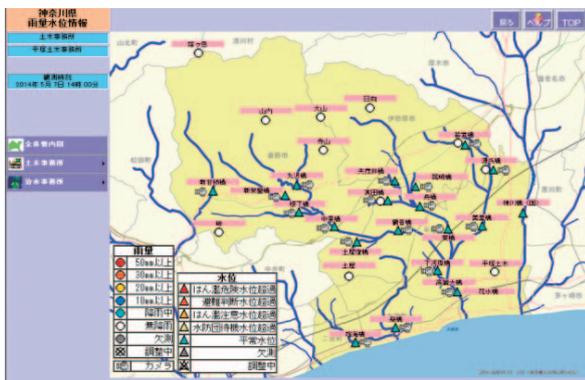


図-6 神奈川県雨量水位情報

http://www.pref.kanagawa.jp/sys/suibou/web_general/suibou_joho/index.html



図-7 平成24年度の水防演習の様子

＜H26年度水防演習＞

県民の生命や財産を守るため、消防団や防災機関等の水防活動に従事する者の技術の向上及び、県民の水防に対する理解を深め広く協力をもとめることを目的に、神奈川県と関係市町村の共催により隔年で水防演習を実施しています。

平成26年度は、「洪水から守ろうみんなの地域」を演習テーマとして、平成26年5月25日(日)に厚木市内の相模川右岸河川敷で実施します。この原稿を執筆中である現在は、水防演習の実施に向けて担当者が多忙な日々を送っていますが、「月刊防災」6月号が発行される頃には、無事に開催でき一安心できていることを願っています。

4. おわりに

これから台風時期を迎えますが、万が一、災害が発生した場合には、迅速に対応できるように日頃から災害に備えた万全の準備をしていきたいと考えています。

最後になりましたが、災害査定において、ご指導・ご支援いただきました国土交通省並びに財務省の方々に誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。